

北見市における景気動向調査報告書

< 第 III 四 半 期 >

北 見 商 工 会 議 所

I. 調 査 要 領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 平成29年1月13日

(2) 調査対象期間 平成28年10月～12月期実績および平成29年1月～3月期見通しについて調査した。

2. 調査対象

北見市に所在する製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を対象に、往復ハガキにより調査した。

3. 回収状況

業種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回答率
製造業	30社	22社	73.3%
建設業	30社	22社	73.3%
卸売業	30社	22社	73.3%
小売業	35社	23社	65.7%
サービス業	25社	18社	72.0%
合計	150社	107社	71.3%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

II . 概 況

《 全 体 の 動 き 》

平成28年度第Ⅲ四半期<10月～12月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」23.4、「悪化企業」30.8、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△7.4となっています。

このD・I値を前年同期と比較してみると、前年同期比△6.5→今回△7.4と△0.9ポイントの悪化となっています。また、前期<28年度第Ⅱ四半期>との比較では、前期△13.2→今回△7.4と6.5ポイントの好転となりました。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値22.8、建設業D・I値△9.1、卸売業D・I値△36.4、小売業D・I値0、サービス業D・I値△16.7となっており、前年同期調査と比較すると、製造業で18.8、建設業で23.3ポイント好転している一方で、卸売業で26.4ポイントの悪化となりました。小売業とサービス業においてはD・I値に変動はありません。

前年同期と比べ特に26.4ポイントの悪化を示した卸売業の内訳を見ると、鉄鋼等は好転傾向を示しているものの、その他の業種で悪化傾向を示す結果となっております。

なお、来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」15.9%「悪化企業」32.7%でD・I値△16.8と、前年同期(△15.6)に比べ1.2ポイント悪化となり、依然厳しさが伺える来期見通しとなっております。

《 業 種 別 の 動 き 》

1) 製 造 業	生産高	前年比で「増加企業」28.0%、「減少企業」24.0%、D・I値4.0と前年同期に比べ26.7ポイントの好転傾向を示し、マイナスからプラスに転じる結果となりました。
	採 算	前年比で「好転企業」16.0%、「悪化企業」36.0%、D・I値△20.0と前年同期に比べ7.3ポイントの好転となりました。
	来期見通し	業況D・I値△8.0、生産高D・I値△12.0、資金繰りD・I値△8.0と全てで好転傾向を示し、予断を許さないものの明るさが見える来期見通しとなっています。
2) 建 設 業	完成工事高	前年比で「増加企業」33.3%、「減少企業」42.9%、

D・I値△9.6と前年同期に比べ35.2ポイントの好転傾向を示しました。

採算 前年比で「好転企業」38.1%、「悪化企業」28.6%
D・I値9.5と前年同期に比べ33.7ポイントの大幅な好転傾向を示し、マイナスからプラスに転じる結果となりました。

来期見通し 業況D・I値△28.7、完成工事高D・I値△38.1、
資金繰りD・I値△19.0と全てのD・I値がマイナスに悪化しており、厳しさが見える来期見通しとなっています。

3) 卸売業

売上高 前年比で「増加企業」20.0%「減少企業」40.0%、
D・I値△20.0と前年同期に比べ3.4ポイントの悪化傾向を示しました。

採算 前年比で「好転企業」20.0%、「悪化企業」35.0%、
D・I値△15.0と前年同期に比べ19.8ポイントの好転傾向を示しました。

来期見通し 業況D・I値△15.0、売上高D・I値△5.0、資金
繰りD・I値5.0と前年同期に比べ全て好転傾向を示し、予断を許さないものの明るさが見える来期見通しとなっています。

4) 小売業

売上高 前年比で「増加企業」28.0%「減少企業」40.0%、
D・I値△12.0と前年同期と比べて42.2ポイントの大幅な好転傾向を示しました。

採算 前年比で「好転企業」36.0%「悪化企業」28.0%、
D・I値8.0と前年同期と比べ49.7ポイントの大幅な好転傾向を示し、マイナスからプラスに転じる結果となりました。

来期見通し 業況D・I値4.0、売上高D・I値△4.0、資金繰りD・
I値4.0と、前年同期と比べ、全て大幅な好転傾向を示し、予断を許さないものの明るさが見える来期見通しとなっています。

5) サービス業

売上高 前年比で「増加企業」11.1%、「減少企業」27.8%、

D・I値△16.7と前年同期と比べ17.9ポイントの好転傾向を示しました。

採 算

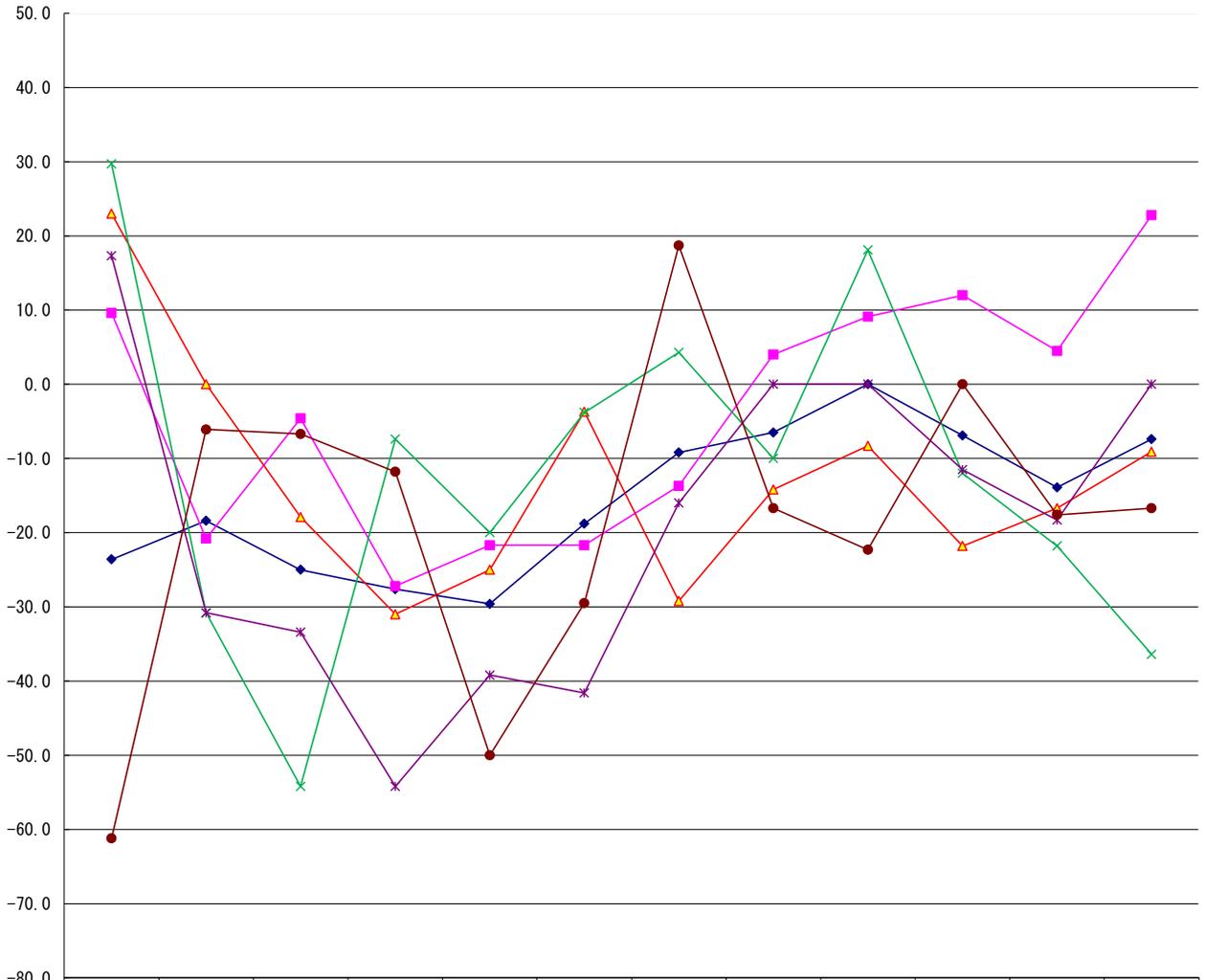
前年比で「好転企業」5.6%、「悪化企業」22.2%、D・I値△16.6と前年同期に比べ36.3ポイントの好転傾向を示しました。

来期見通し

業況D・I値△38.9、売上高D・I値△44.4、資金繰りD・I値△33.3と前年同期と比べ、わずかながら全て悪化傾向を示し、厳しさが伺える来期見通しとなっています。

業況（前年同期比）

◆ 全業種
 ■ 製造業
 ▲ 建設業
 × 卸売業
 ✱ 小売業
 ● サービス業



	26.1~3 25年度IV	26.4~6 26年度I	26.7~9 26年度II	26.10~12 26年度III	27.1~3 26年度IV	27.4~6 27年度I	27.7~9 27年度II	27.10~12 27年度III	28.1~3 27年度IV	28.4~6 28年度I	28.7~9 28年度II	28.10~12 28年度III
◆ 全業種	-23.6	-18.4	-25.0	-27.6	-29.6	-18.8	-9.2	-6.5	0.0	-6.9	-13.9	-7.4
■ 製造業	9.6	-20.8	-4.6	-27.2	-21.7	-21.7	-13.7	4.0	9.1	12.0	4.5	22.8
▲ 建設業	23.0	0.0	-17.9	-31.0	-25.0	-3.7	-29.2	-14.2	-8.3	-21.8	-16.7	-9.1
×	29.7	-30.8	-54.2	-7.4	-20.0	-3.8	4.3	-10.0	18.1	-12.0	-21.8	-36.4
✱ 小売業	17.3	-30.8	-33.4	-54.2	-39.2	-41.6	-16.0	0.0	0.0	-11.5	-18.3	0.0
● サービス業	-61.2	-6.1	-6.7	-11.8	-50.0	-29.5	18.7	-16.7	-22.3	0.0	-17.6	-16.7

業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増	得 意 先 減 少	同 業 者 間 の 競 合
建 設 業	人 材 不 足	諸 経 費 増	同 業 者 間 の 競 合	人 件 費 増	得 意 先 減 少
卸 売 業	同 業 者 間 の 競 合	人 材 不 足	得 意 先 減 少	諸 経 費 増	人 件 費 増
小 売 業	同 業 者 間 の 競 合	得 意 先 減 少	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増
サ ー ビ ス 業	諸 経 費 増	人 件 費 増	人 材 不 足	得 意 先 減 少	同 業 者 間 の 競 合
合 計	同 業 者 間 の 競 合	人 材 不 足	諸 経 費 増	得 意 先 減 少	人 件 費 増

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

○前年同期比

全業種で見ると、トップは変わらず「同業者間の競合」となり、前年同期調査で2位だった「諸経費増」と3位だった「人材不足」が入れ替わり、それぞれ2位、3位となりました。4位5位は変化無しという結果になりました。

また、業種別で見ると、製造業・建設業・小売業・サービス業のトップは前年同期と一緒となっている。卸売業は前年2位の「同業者間の競合」がトップとなり、前年3位の「人材不足」が2位という結果になった。全ての業種において「人材不足」という問題点が順位を上げている結果となった。

※その他及び具体的な業界の問題点の記載事項

- (製造) ○原材料不足 (一般製材)
- (建設) ○従業員の高齢化 (土木)
○労働時間の短縮 (金属製屋根工事)
- (卸売) ○回収サイトなど業界の古い商習慣の改善 (種苗・肥料)
- (小売) ○インターネットでの購入が多くなっているため、
地元の商店には足を運ばないので困る (額縁・絵画)

業況

※太字アンダーラインは複数企業が回答

- 製造業 ⇒ 好転 (農業用機械、金属製品、一般産業機械)
悪化 (印刷)
- 建設業 ⇒ 好転 (一般土木建築、冷暖房設備)
悪化 (土木工事、一般管工事、給排水設備、塗装)
- 卸売業 ⇒ 好転 (鉄鋼、一般製材)
悪化 (木材竹材、石油製品、酒、家庭用電気機械、自動車部品、事務機械)
- 小売業 ⇒ 好転 (菓子、野菜、眼鏡、呉服、介護用品、火薬類、生鮮食品)
悪化 (呉服、電化機器、スポーツ用品、米穀類)
- サービス業 ⇒ 好転 (建物清掃)
悪化 (ホテル【宿泊】、クリーニング)